

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：32633

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23660114

研究課題名（和文）インドネシアの看護・助産強化モデル開発とPHC専門看護師育成の協働的開発

研究課題名（英文）Collaborative Development of Strategic Model for Strengthening Nursing and Midwifery Focusing in Primary Health Care in Indonesia

研究代表者

田代 順子（TASHIRO JUNKO）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：30134175

研究成果の概要（和文）：

研究目的は、インドネシア（イ国）におけるプライマリヘルスケア(PHC)を促進する専門看護師育成のカリキュラムを協働的に開発するために、看護・助産職ステークホルダーが考えるイ国における看護・助産強化モデルをイ国人研究パートナーと構築することであった。20名の看護・助産ステークホルダーの面接調査の結果、1)、2005年から25年までに、健康で自己充足的で公正さをイ国民に保障すべく、政策“Healthy Indonesia 2025”が進んでいるが、地域では施策は具体的でない。2) 現在、看護職は25万人で、医療機関で働いており、助産師は、地域の保健センターで働いている。ケアの質向上のため看護・助産人材の質・量の向上が必要であった。この結果から、インドネシア看護・助産強化を主眼とした戦略的モデル試案を作成した。

研究成果の概要（英文）：

Aim of this study was to develop a model to strengthen nursing and midwifery in Indonesia through the collaboration with Indonesian counterparts by describing Indonesian stakeholder's perception on the way to strengthen nursing and midwifery. Based on the interview survey of 20 stakeholder's, results were 1) a policy “Healthy Indonesia 2025” assuring Healthy; self-sufficient; just of Indonesia has being enacted although intervention programs are not clear after the policy started. 2) Currently, approximately 250,000 nurses are working in hospitals, 150,000 midwives are working in community health centers. In terms of further improvement of quality of care in both hospital and community, it is essential to strengthen nursing and midwifery through strengthening education. We develop a strategic model to strengthen higher education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：看護・助産強化；プライマリヘルスケア；専門看護師育成；看護政策試案

1. 研究開始当初の背景

国際間の健康格差が問題となり、2000年に国連にミレニアム開発目標（MDGs）が採択され、2015年までの目標の達成のため、課題を持つ国々自身のリーダーシップと国際協働活動がすすんでいる。看護・助産職は、保健職の中で多数を占めており、看護・助産職の人材の質と数はその国の健康の質に大きな影響を与えることが知られている。1989年の42回WHO総会で『PHC促進のための看護・助産強化』が決議されており、日本においては、看護・助産の高等教育化を推進してきている。各国、特に新興国では、看護職の高等教育化を進め、大学院強化の段階にきているが、財政、高等教育のできる人材は不足しており、対応はできていない。日本の看護職は、1960年代から国際協力に従事しており、インドネシアでは1978年に看護教育開発センターの協力をした。今日、日本の大学院では国際看護学や助産学が開講しているが、協働アプローチに関する研究結果を基盤とした協働アプローチの開発は今後の課題である。

2. 研究の目的

(1)インドネシアの看護・助産職ステークホルダー（保健省、看護協議会、看護協会、看護教育者、医療施設長）が考えるプライマリヘルスケア（PHC）を促進できる専門看護職の育成とその定着プログラムモデル（看護・助産強化モデル）をインドネシア人研究パートナーと共に開発し、インドネシア専門看護師育成のカリキュラム開発を協働的に支援する。

3. 研究の方法

初年度の2011(平成23)年は、既存情報を収集するとともに、10月に、ステークホルダーの面接調査をイ国人研究パートナーとともに面接調査をおこなった。面接調査では、国（厚生省看護課、人材育成課）、看護職能団体（看護師協会、助産協会）、高等教育教員、西ジャワ地区行政担当者、看護学校教員、看護師長に面接調査を依頼した。面接調査では、1)行政関係者には、(1)現在行われている看護・助産強化の対策を中心に、その財政的基盤、担当部署や体制・管理、その他リソースや海外からの支援等)と；(2)現在の課題、を聴取した。2)職能団体や教育関係者には、(1)現在の人材育成の体制や管理の状況と、(2)現在の課題について聴取し

た。聴取した情報は、ICレコーダーで録音し、イ国人研究者が情報を、質問毎の一覧表として整理した。質問毎の一覧表を用いて、日本人研究者と共に分析し、既存情報と共に、看護・助産強化モデル試案を作成した。

2年目の2012(平成24)年は、9月に研究協力を得られたステークホルダーに出席してもらいワークショップを開催し、情報とモデルの妥当性を確認した。加えて、初年度の既存情報と面接調査結果の分析により抽出した課題領域：地域保健領域、および高等教育の教育方法を探索的に調査した。

4. 研究成果

1)2011(平成23)年面接調査

(1)面接調査参加者：国レベル：保健省・看護課長（1名）、人材育成担当者2名）看護協議会会長、1名、高等教育機関長1名；職能団体：看護師協会2名、助産師協会2名；地区レベル：地区保健省病院責任者3名、保健担当者3名、看護学校教育者3名、看護管理・師長2名等、20名の協力を得た。

(2)面接調査・既存情報の分析結果；国行政・教育レベルでは、①現状の方策：インドネシアでは、健康で、自己充足的で、公正なインドネシア国民を保障すべく、2005年から25年度の開発計画が進んでおり、人材育成や教育の強化は重要な強化すべき領域となっている。厚生省では、文部省と連携しつつ、“Healthy2025”を進めている。

看護人材に関して、看護職は25万人が、主に医療機関で働いている。SP2KP（専門職看護サービスを提供するためのトレーニングと教育）あるいは、DPDM（臨床実践力開発の管体制）が国の指導のもと、地方自治体の予算で実施されている。

看護教育は文部省と厚生省の管轄のもと、高等教育化がすすんでいる。インドネシア大学では博士課程が近年開講した。

②課題：看護職のトレーニングは施策として始まっているが、未だ、成果の評価には至っておらず、看護職の登録や業務内容の標準化は今後の課題の状況となっている。

職能団体（看護師協会・助産師協会）：

①現状：看護師は、看護学校および高等教育の看護教育で育成されている。看護師は、人口10万対91名で主に病院に勤務している。助産師は人口10万対51名で、助産師は開業権をもち、地域の中で周産期ケアに従事している。

②課題：助産師教育は、助産師学校で助産師

教育の中で系統的に行われているが、高等教育ではなされていない。助産師は地域で活動をしているが、地域母子保健を推進する能力は十分ではない、高等教育の中で位置づいていないため、助産学の発展と助産師の実践の質の向上は課題である。

地区レベルの方策：

① 地区病院ではSP2KPと呼ばれる看護職のトレーニングプログラムを開始している。地区の保健センター（Puskesmas）の Primary Health Care (PHC) 活動の質の向上を考えてゆきたいと考えており、特に、地域での看護職と助産職の役割を向上させたいと考えているが、実行には移すことができていない。

地区での看護学校の教員は、地域での看護教育を受けたい学生は多く、加えて、その他の医療職のニーズも高く教育が始まっているが、その育成の基準が統制されていない。
②課題：保健人材のトレーニングは一部始まったばかりであり、現状としてはPHCを活発化するには不十分である。ケア向上のための看護職の量的・質的増強と、母子保健指標の改善において、保健センターで働く助産職の質向上が課題であると報告された。

(3) 結果分析・統合：

この面接調査の結果、および既存情報の分析から、インドネシア看護・助産強化モデル試案(図1)を作成した。

面接調査で報告された共通する現状の課題は、政策と実施の間のギャップが存在し、政策が推進されていない点であった。つまり、地区あるいは保健センターの保健実践レベルでその政策が十分に反映した活動が展開出来ていないことであった。特に、人材強化政策として、看護師の高等教育化は目標として掲げられているが、具体的な実施に繋がっていない。また、地域母子保健は保健センターの助産師の役割が大きい、助産師教育の高等教育化は、いまだ着手されていない状況が抽出された。

2) 2012 (平成24) 年：

9月にイ国に訪問し、ステークホルダーとワークショップを開催し、前年の面接調査の分析結果の妥当性を確認し、さらに、看護・助産強化モデル試案の意見を聴取した。加えて、追加情報として、イ国の健康課題に対応した高等教育の現状の課題、特に地域看護学、および、上級実践のための基盤科目の教授法の現状と課題をパイロット調査を行った。

(1) ワークショップには、保健省、看護協会、助産師協会、看護教育者・カウンターパートの施設長が参加した。

ワークショップでは、情報に関して同意を得た。議論された課題は、助産師の質向上の課題であった。助産師は地域母子保健で大きな役割を担っているが、高等教育に位置づいていない現状がある。助産師協会の代表者は、強く助産師の質の向上のために高等教育への移行の希望が述べられた。

問題としては、長く専門学校の教育であったため、高等教育機関で教授できる教員が育っておらず、歴史的・文化的な背景もあり、今後の継続課題であることが確認された。

(2) 追加調査として、

① 地域看護学における地域母子保健と新たな問題である非感染症（生活習慣病）予防の体制と現状、特に、地域保健（PHC）に関して、西ジャワ州の高齢化や非感染症は増加傾向であることをデータにより確認した。しかしながら、地域住民のヘルスニーズの調査はされておらず、今後、evidence-basedで、地域住民ニーズにあった地域看護強化の教育が構築される必要が示唆された。

② 高等教育における教授法、特に、基盤看護学でのヘルスアセスメントあるいは生理学の教育法の改善のために、学部学生の学習ニーズの探索的ニーズ調査を行った。

結果、基盤看護学の領域で、学生の教育ニーズを探索したが、生理学の学習は講義だけでなく、Group-based Learningの方法を用いての学習に対し学生の満足度は高い結果となった。現在、イ国における看護に於いては、高等教育化が進行している。教育方法等の改革が必要であることが示唆された。今後も、看護・助産強化のための協働的に、人材育成の方法に関する研究を継続してゆきたい。

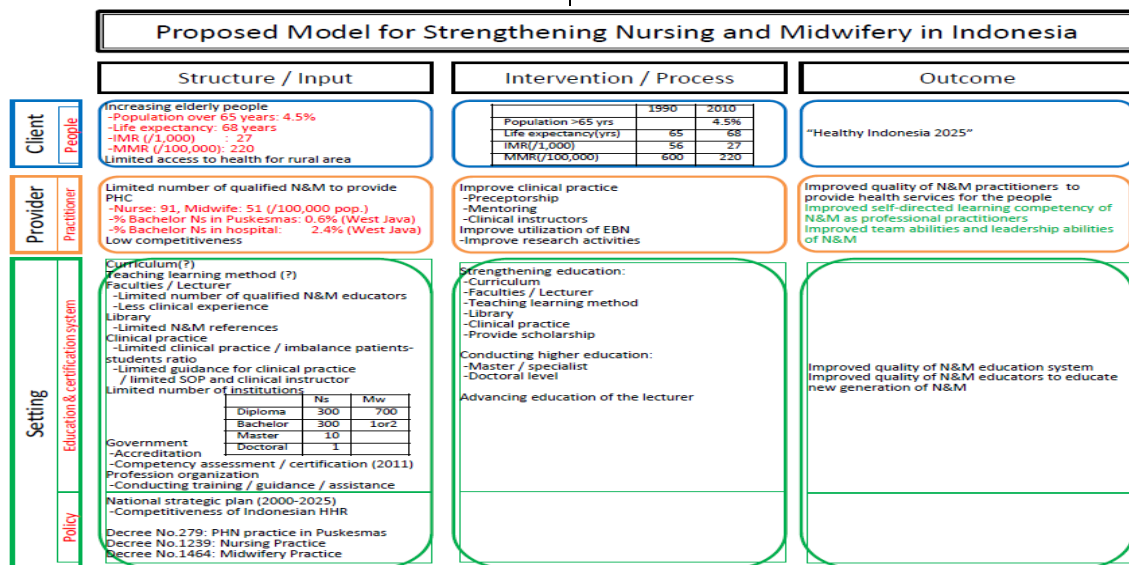


図1. イ国の看護助産・強化モデル

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 3 件)

- ① Tashiro, J., Maftuhah, Mizutani, M., Karyadi. Matsutani, M., Strategies for strengthening nursing and midwifery perceived by stakeholders in Indonesia. International Council of Nurses (ICN) 25th Quadrennial Congress. May, 19th, 2013 at Melbourne, Australia.
- ② 水谷真由美、田代順子、インドネシア西ジャワ州における非感染症対策のための地域保健課題とシステムアセスメント—ウェブ資料から。第28回日本国際保健医療学会東日本地方会、2013年3月23日、東京、日本
- ③ Mizutani, M., Tashiro, J., Maftuhah, Community Health Needs in a District of West Java, Indonesia: A Multi-method Study. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars (EFONS), February, 8, 2013 at Bangkok, Thailand.

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田代 順子 (TASHIRO JUNKO)
 聖路加看護大学・看護学部・教授
 研究者番号：30134175

(2) 研究分担者

松谷 美和子 (MATSUTANI MIWAKO)
 聖路加看護大学・看護学部・教授
 研究者番号：60103587

(3) 連携研究者

長松 康子 (NAGAMATSU YASUKO)
 聖路加看護大学・看護学部・准教授
 研究者番号：80286707